

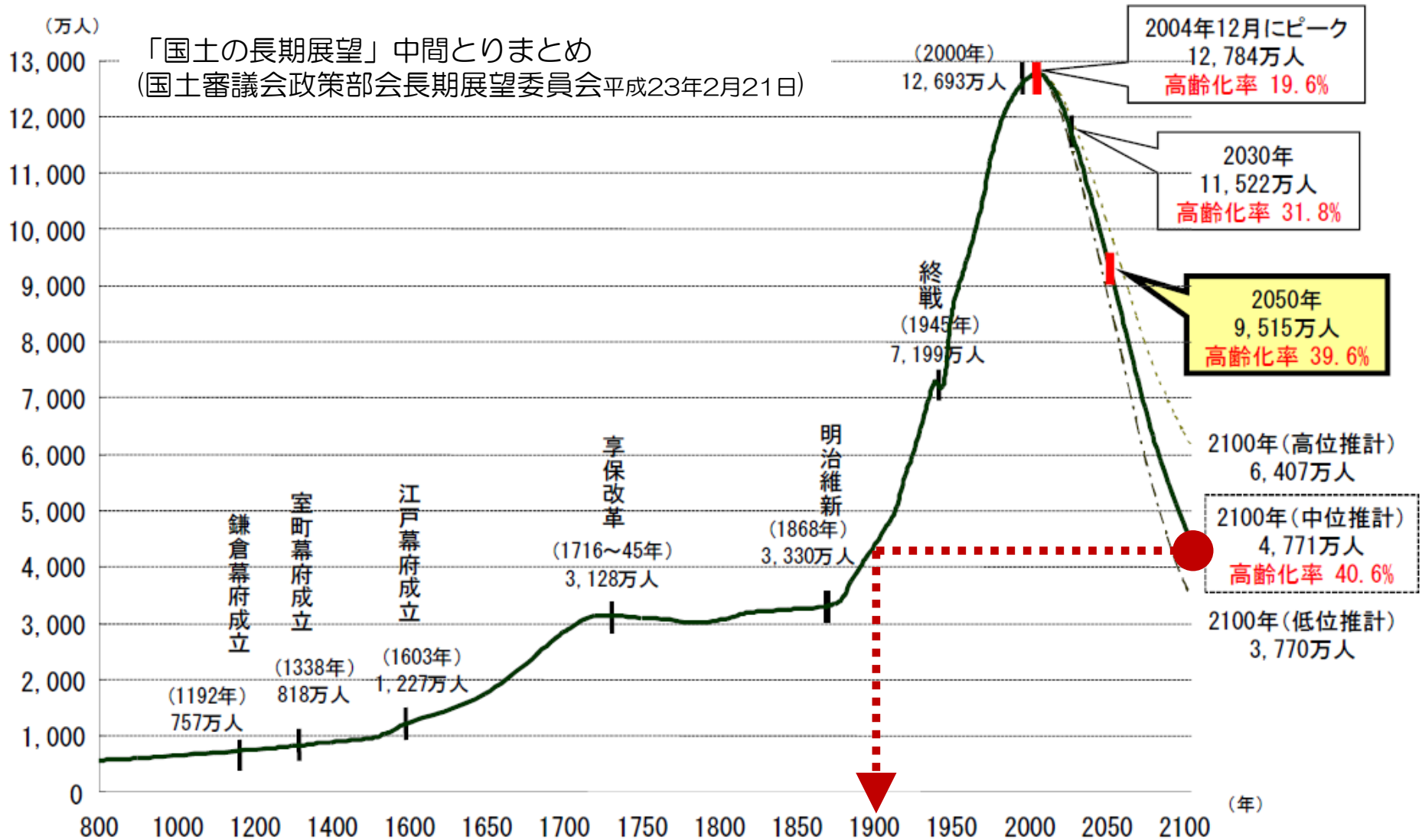
# 今なぜ地域ビジョンか ～発想の転換による”良さ”を活かした地域づくり～



道総研フェロー  
(株)まちづくり計画設計 取締役 統括技師  
松村博文

時代は動く

～ 震災、コロナ禍、技術革新・・・ ～



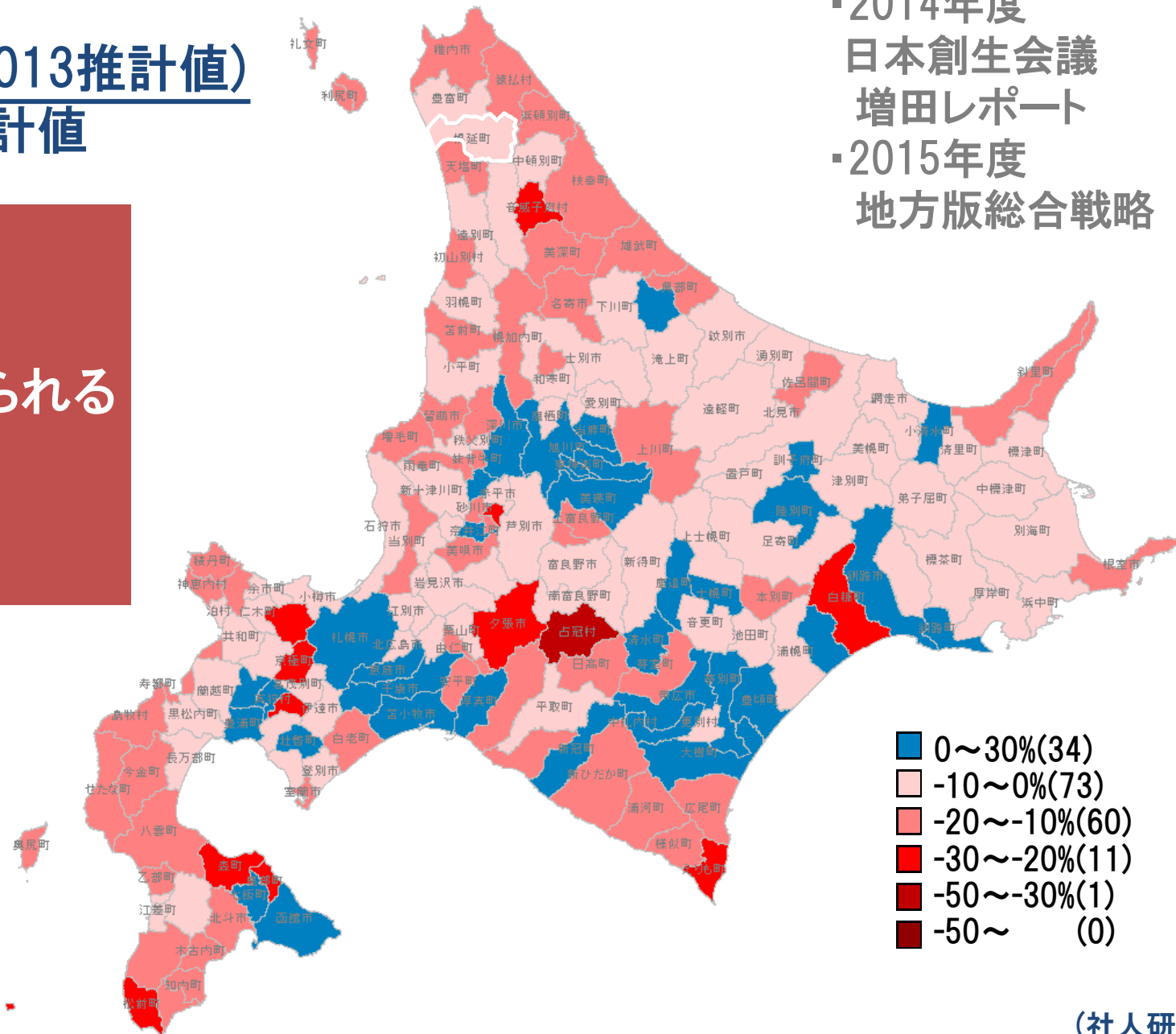
(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

拡大した市街地をどうする

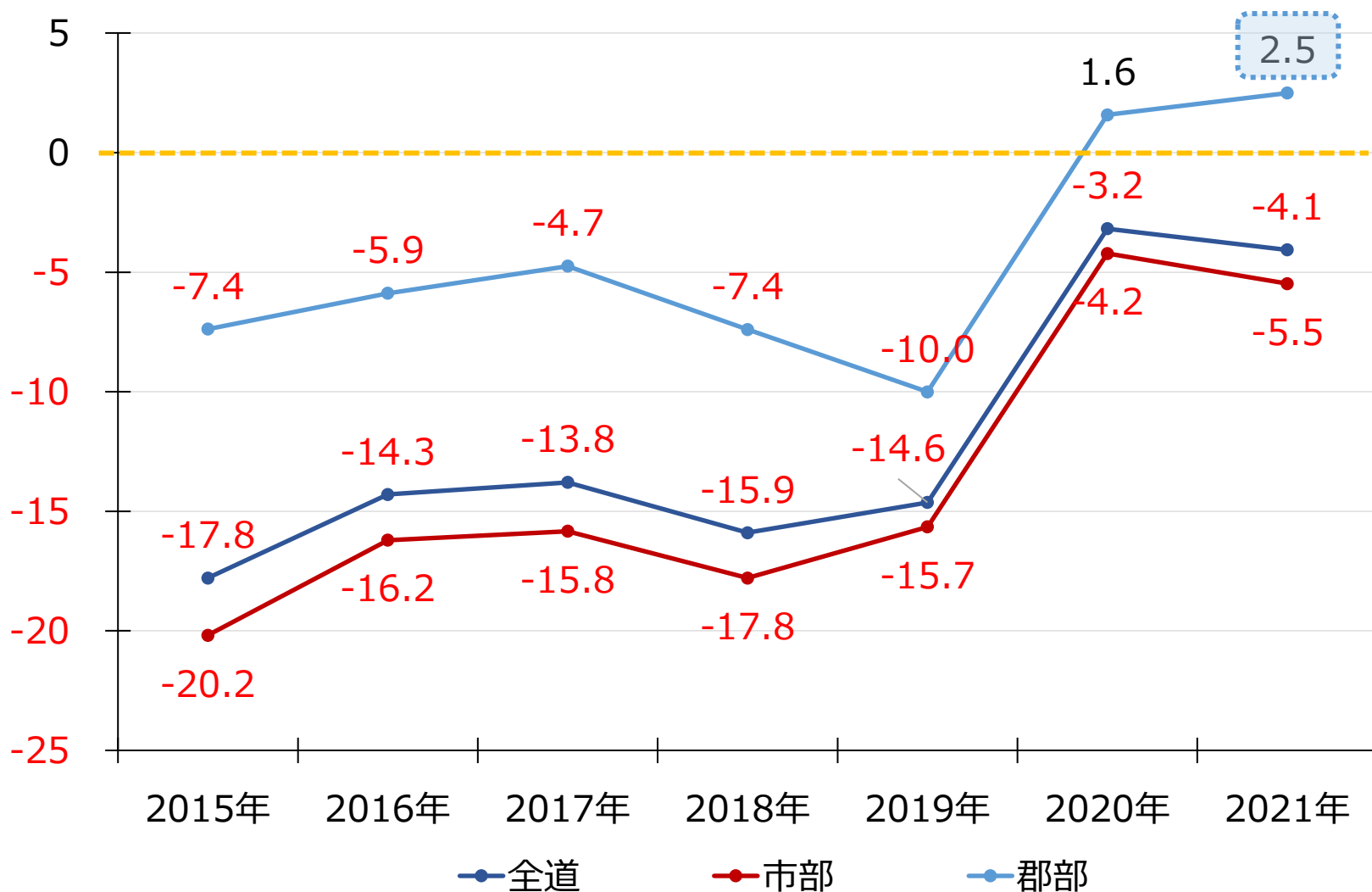
・2035年人口  
(2018推計値-2013推計値)  
2013推計値

・2014年度  
日本創生会議  
増田レポート  
・2015年度  
地方版総合戦略

未来は変えられる



# 北海道外との転出入状況 ((転入-転出)/人口×10000)



[住民基本台帳人口移動報告  
(振興局市区別道外転入転出者数)  
(北海道ホームページ)]



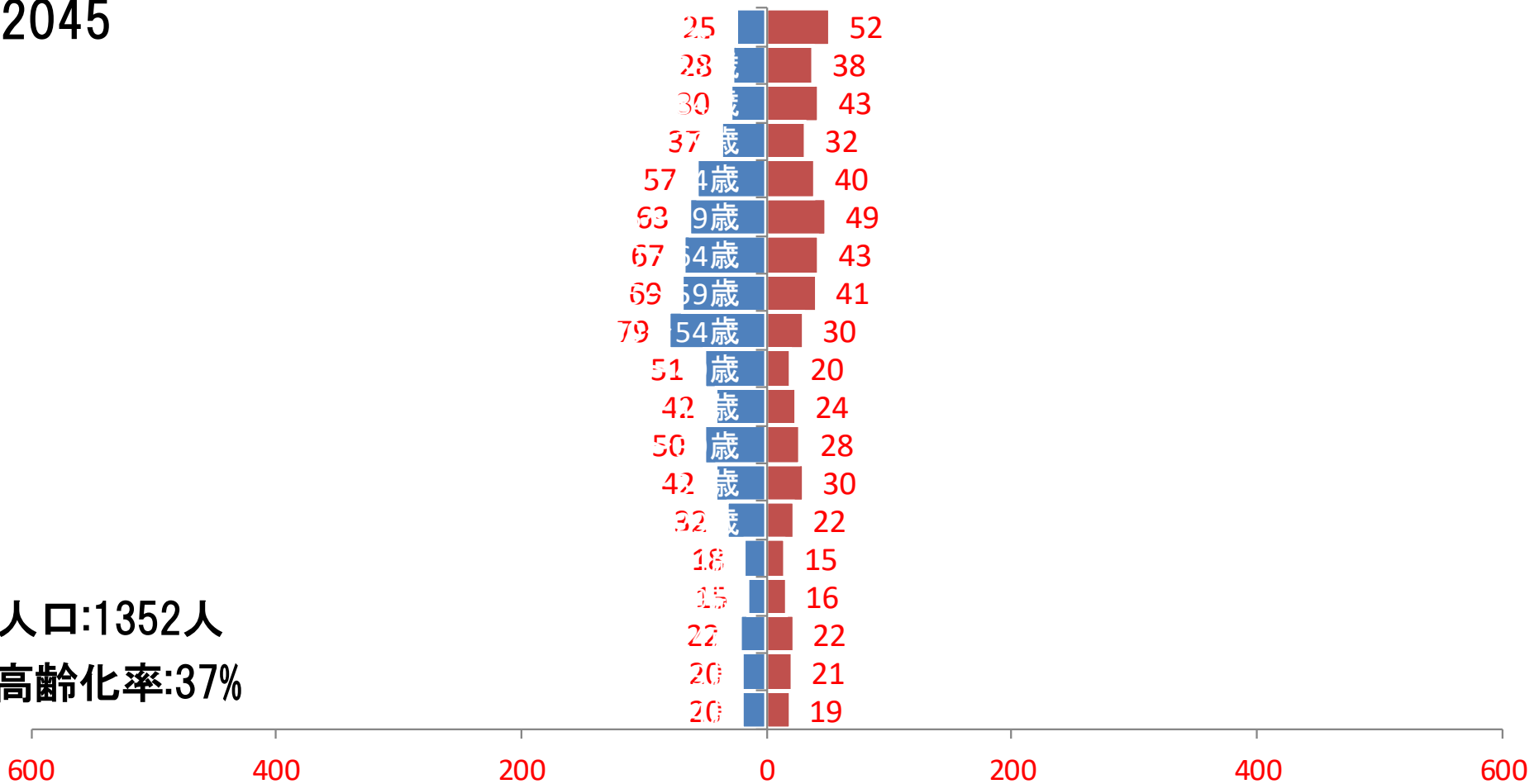
**北海道の転入ポテンシャルの増大**

## 問寒別を読む

～ 人口減少、少子高齢化は悪いことばかりではない ～

2045

人口:1352人  
高齡化率:37%

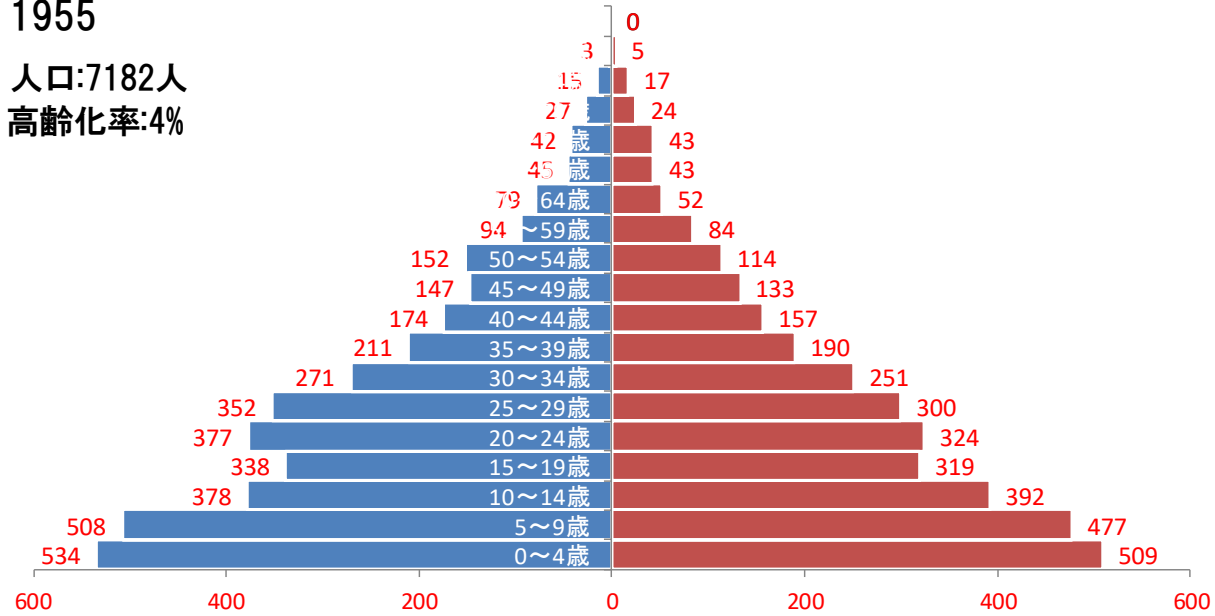




# 人口ピラミッド[幌延町]

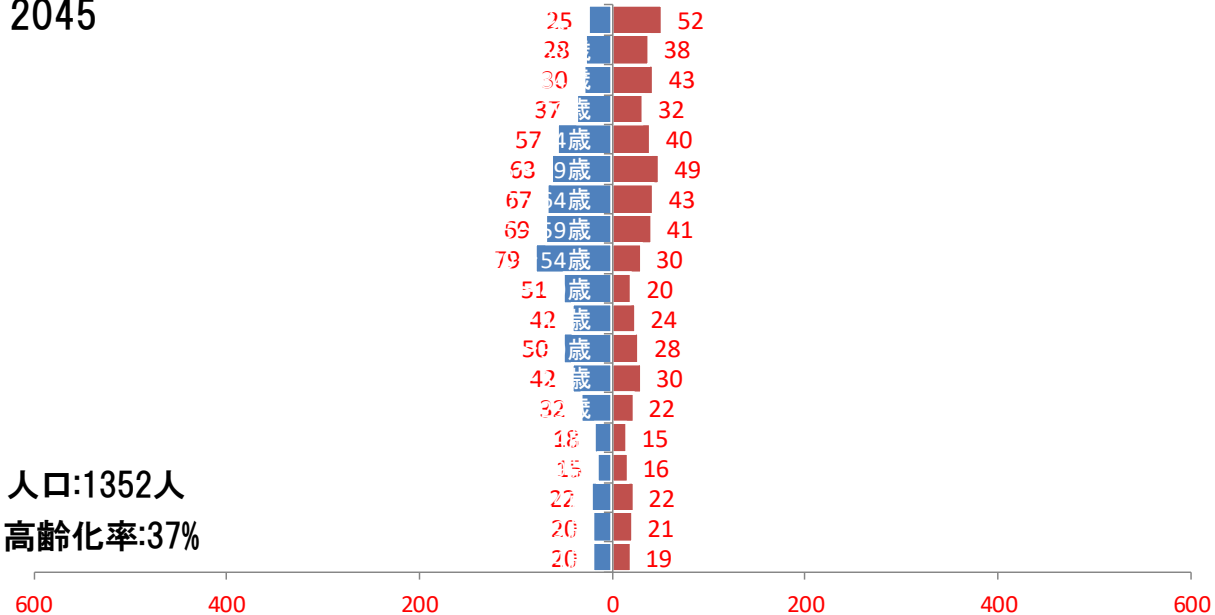
1955

人口:7182人  
高齢化率:4%



2045

人口:1352人  
高齢化率:37%



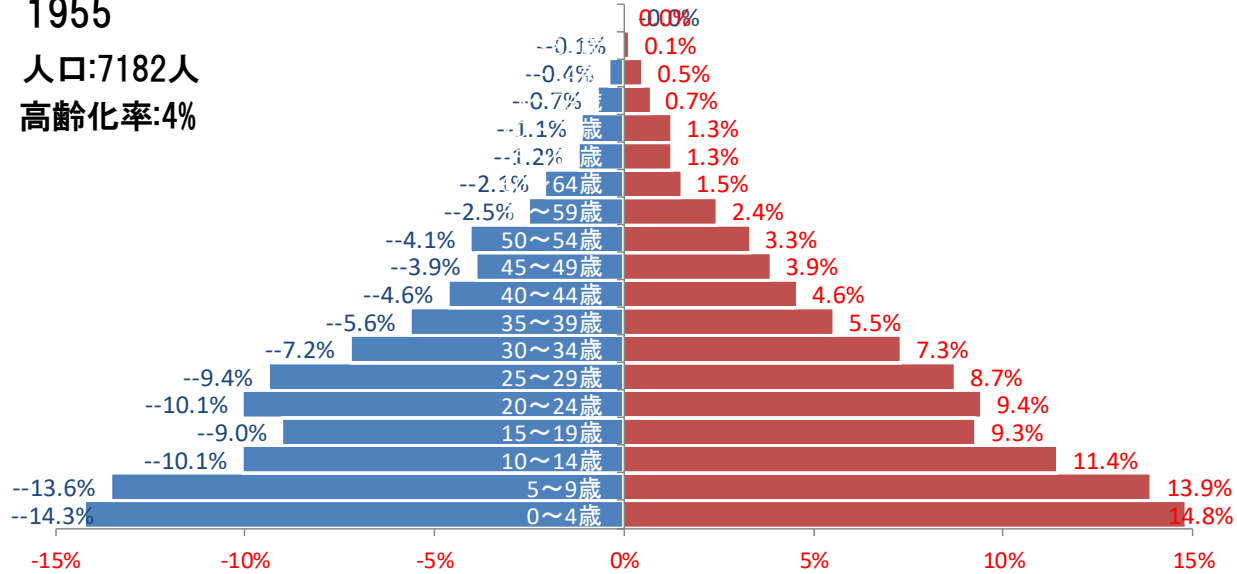


# 人口ピラミッド[幌延町]

1955

人口:7182人

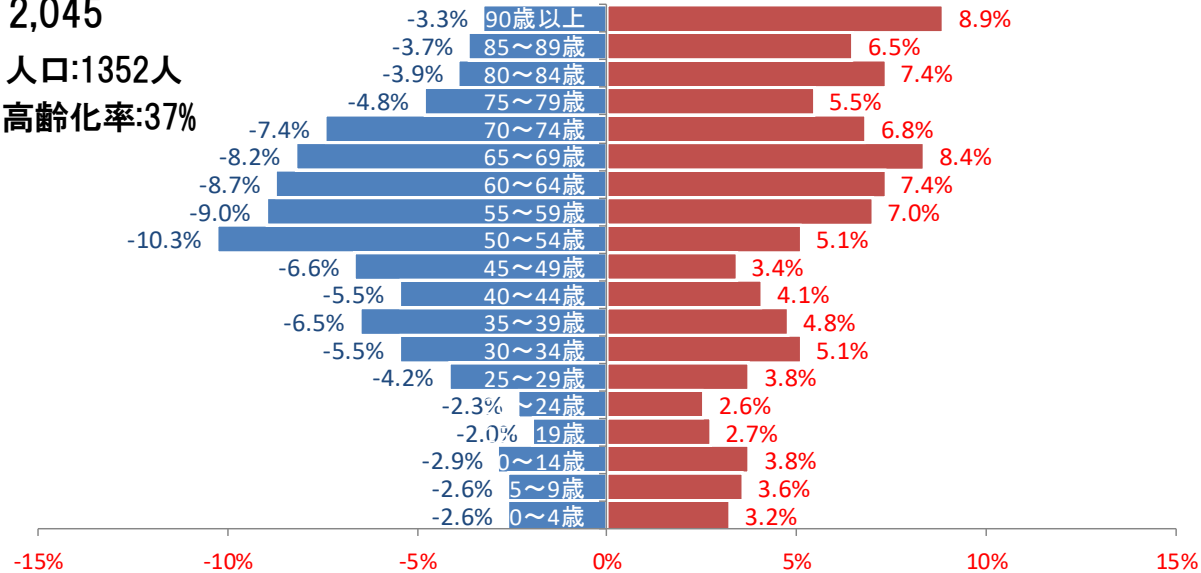
高齢化率:4%



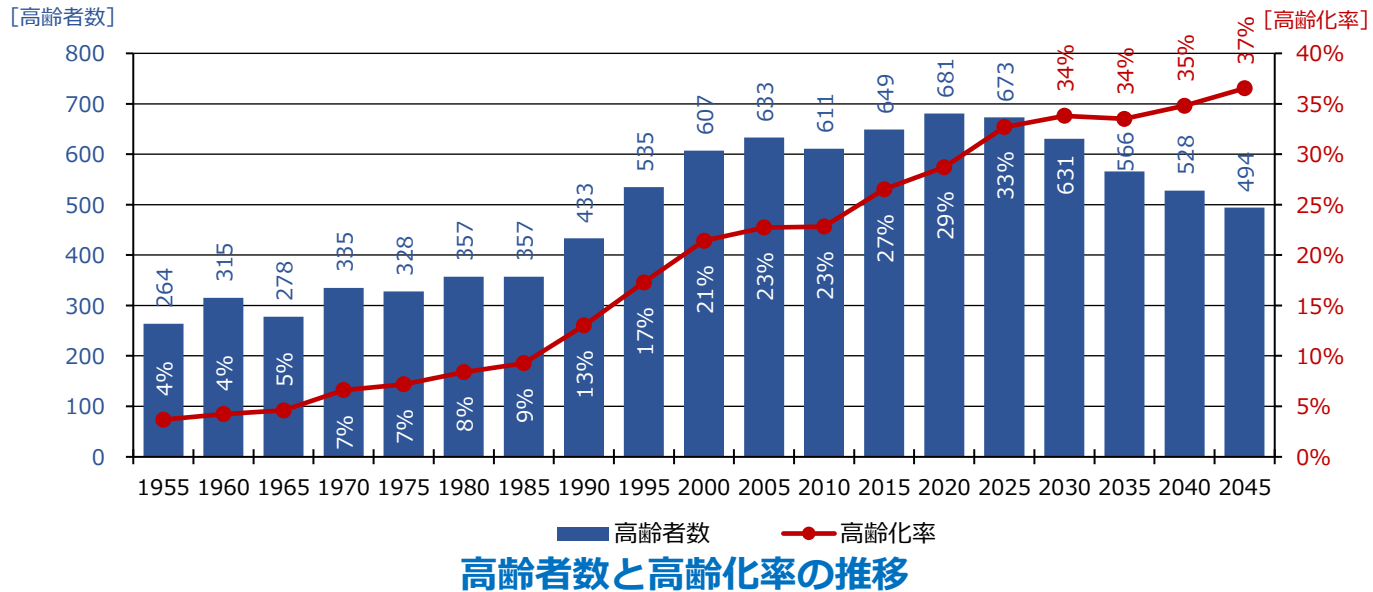
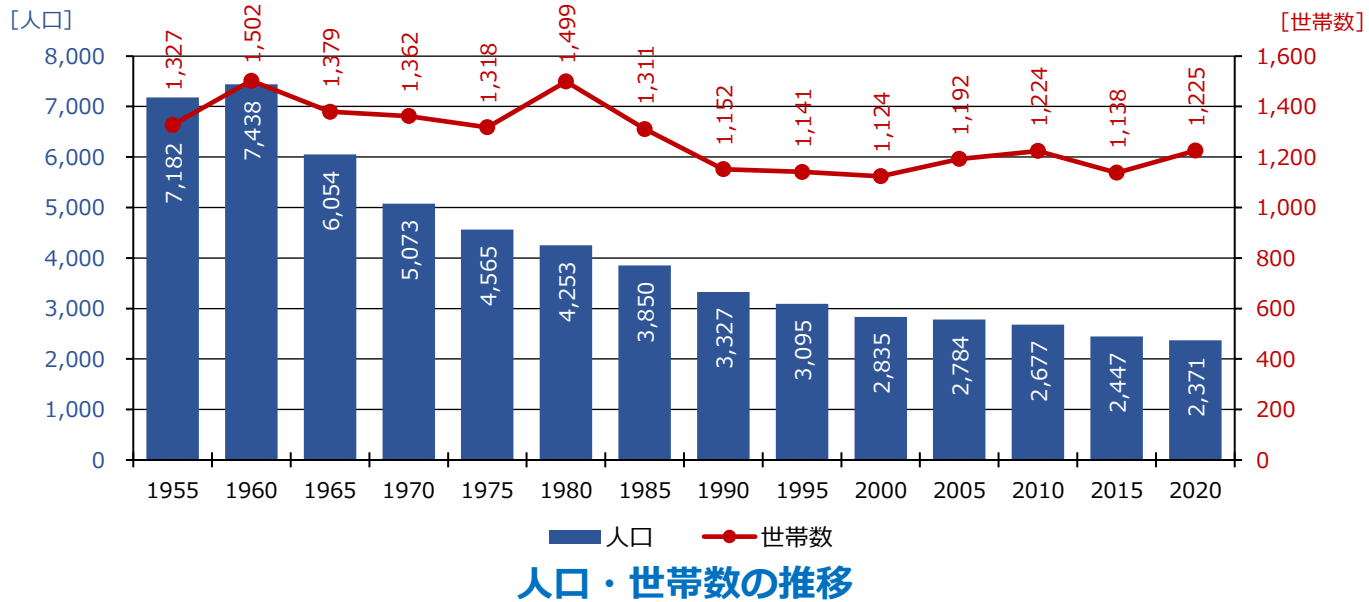
2,045

人口:1352人

高齢化率:37%



# 人口・世帯数の推移と高齢化状況 [幌延町]



[各年国勢調査結果 (総務省統計局)]

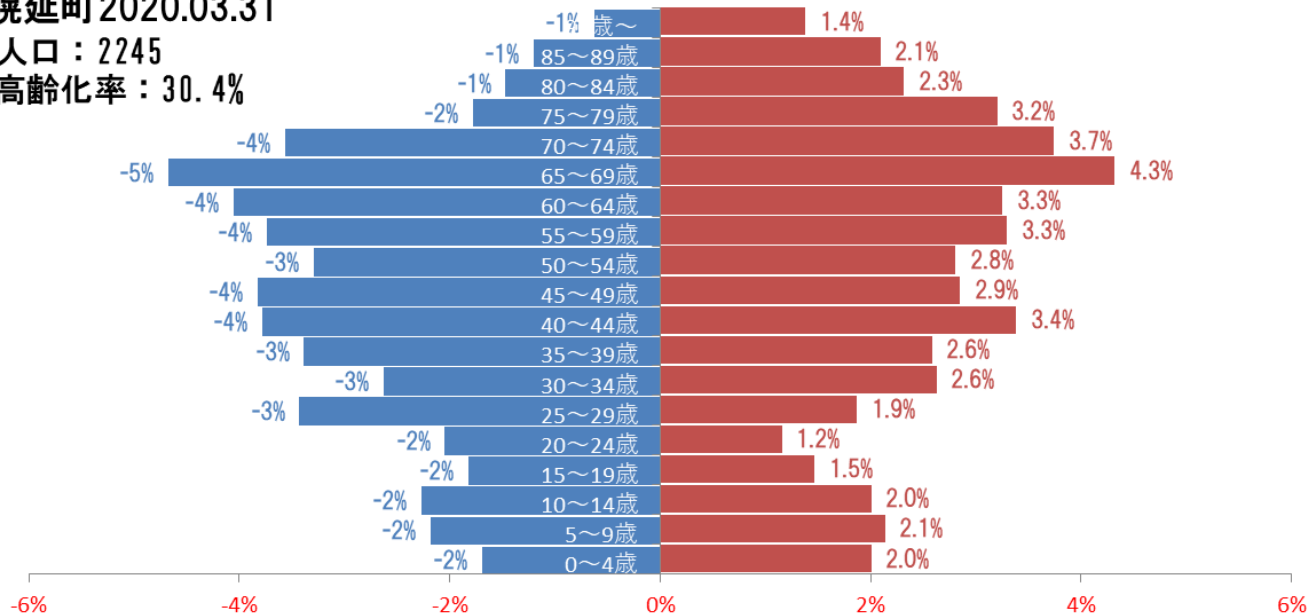
[日本の地域別将来推計人口 (平成30 (2018) 年推計) (国立社会保障・人口問題研究所)]

# 人口ピラミッド[幌延町 問寒別]

## 幌延町2020.03.31

人口：2245

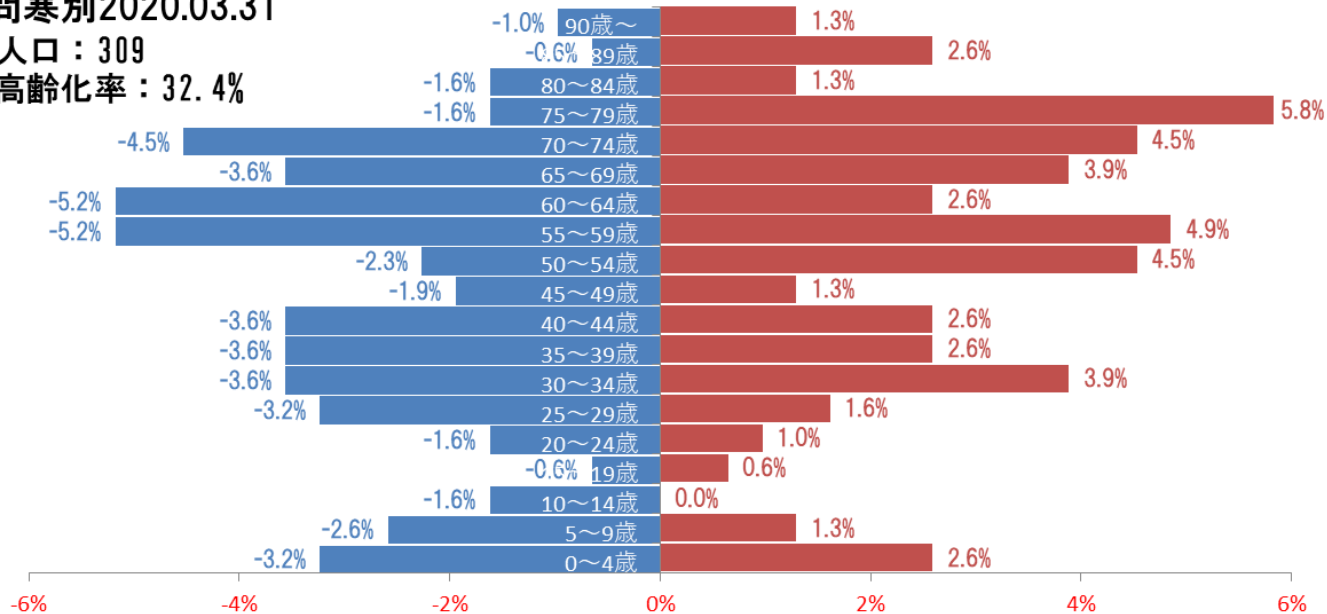
高齢化率：30.4%



## 問寒別2020.03.31

人口：309

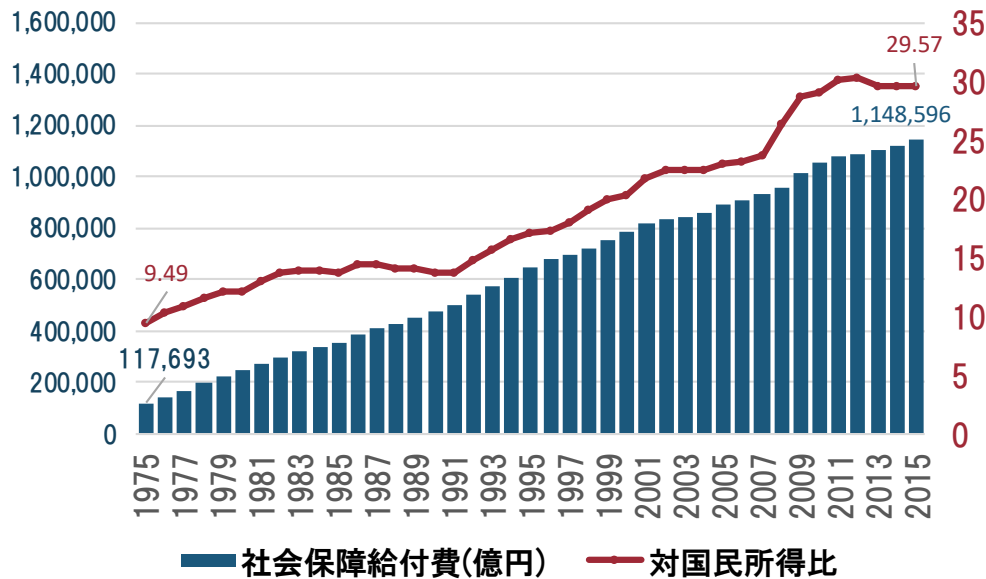
高齢化率：32.4%



高齡者は厄介ものなのか？  
～ 日本の繁栄をつくったのは誰だ ～

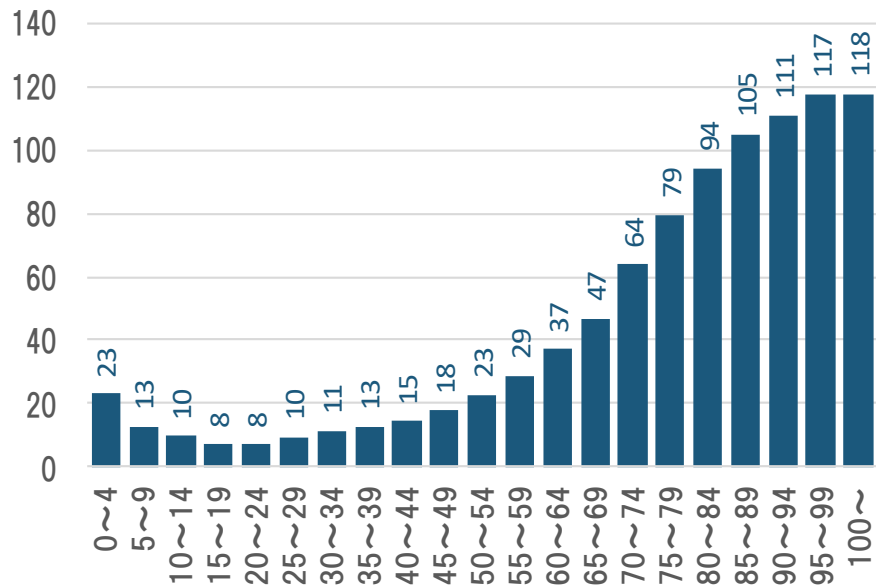
## ■ 高齢社会のコスト負担大

### 社会保障給付費の推移



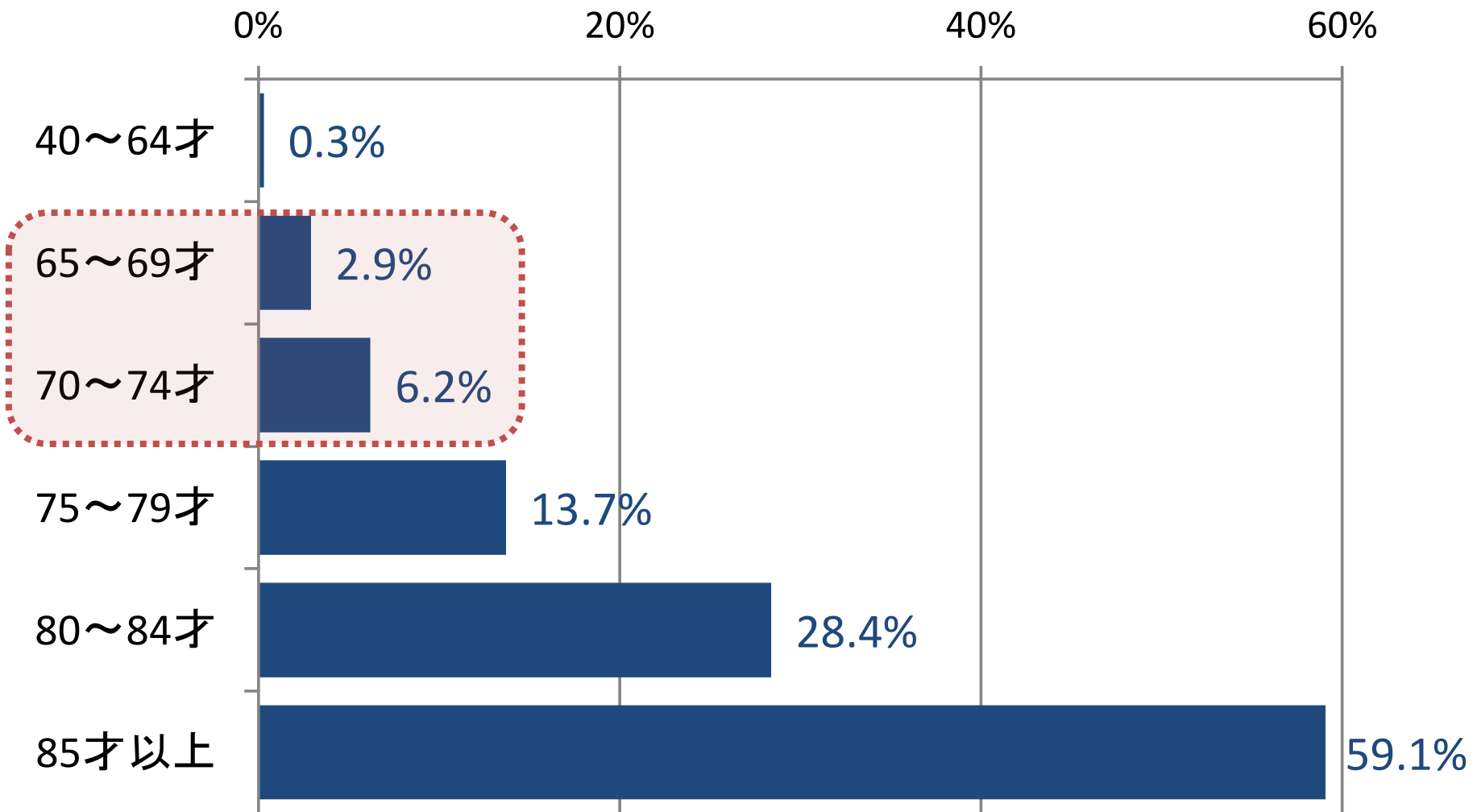
H30高齢社会白書  
(国立社会保障・人口問題研究所「平成27年度社会保障費用統計」)

### 年齢階級別1人当たり医療費 (平成27年度)医療保険制度分(万円)

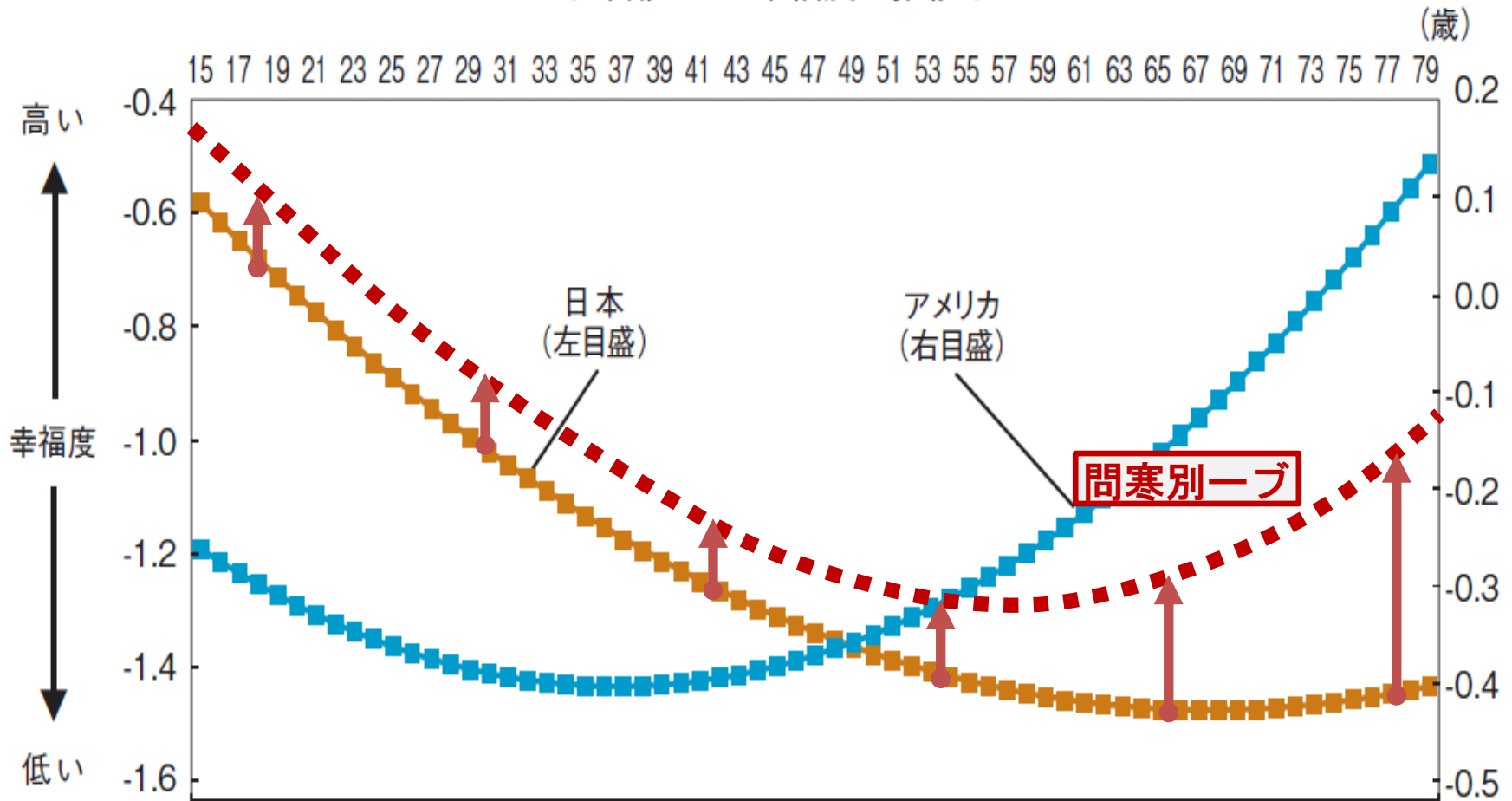


H30高齢社会白書  
(厚生労働省保険局「医療保険に関する基礎資料」)

## ■元気な高齢者がたくさんいる時代に >>>高スキルで安価な労働力



●年齢による幸福度の推移●



(備考) 日本については、付注第1-3-1掲載の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。アメリカについては、David. G.Blanchflower, Andrew J.Oswald「Well-Being Over Time In Britain and the USA」掲載のTable4(1)の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。



サービスを受ける人(医療、福祉)



サービスを提供する人(地域貢献)



共助の力で地域が良くなる

高齢者の健康、幸福度の向上



行政コストの低減(地域運営コスト、社会保障費)

**空家は世代の新陳代謝の武器**  
～ 空家を中古住宅流通に ～

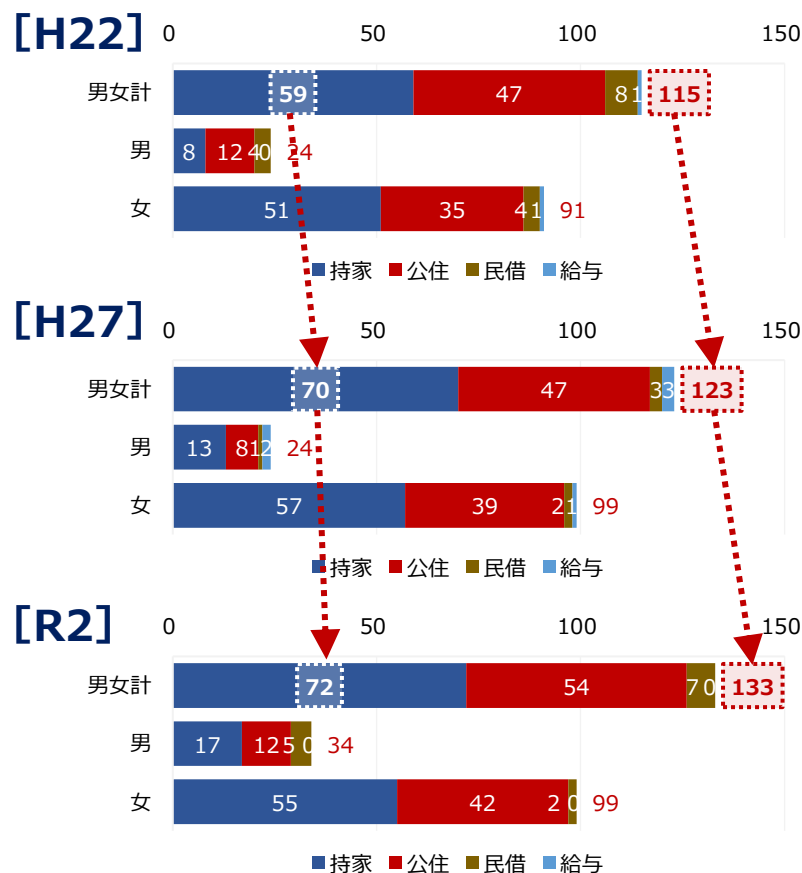
# 高齢世帯の持家世帯 [空き家予備軍] 幌延町

■ 高齢単身世帯数 H22 : 115世帯 → H27 : 123世帯 → R2 : 133世帯

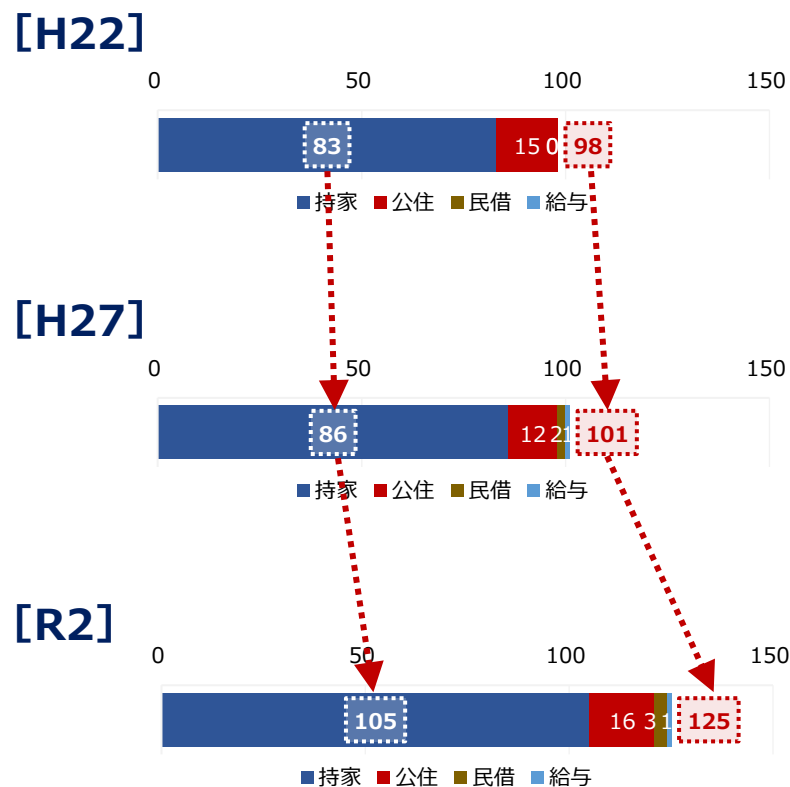
■ 持家に住む高齢単身者 H22 : 59世帯 → H27 : 70世帯 → R2 : 72世帯

>>> 空き家予備軍の対策  
・コメント

高齢単身世帯の住宅種類



高齢夫婦のみ世帯の住宅種類



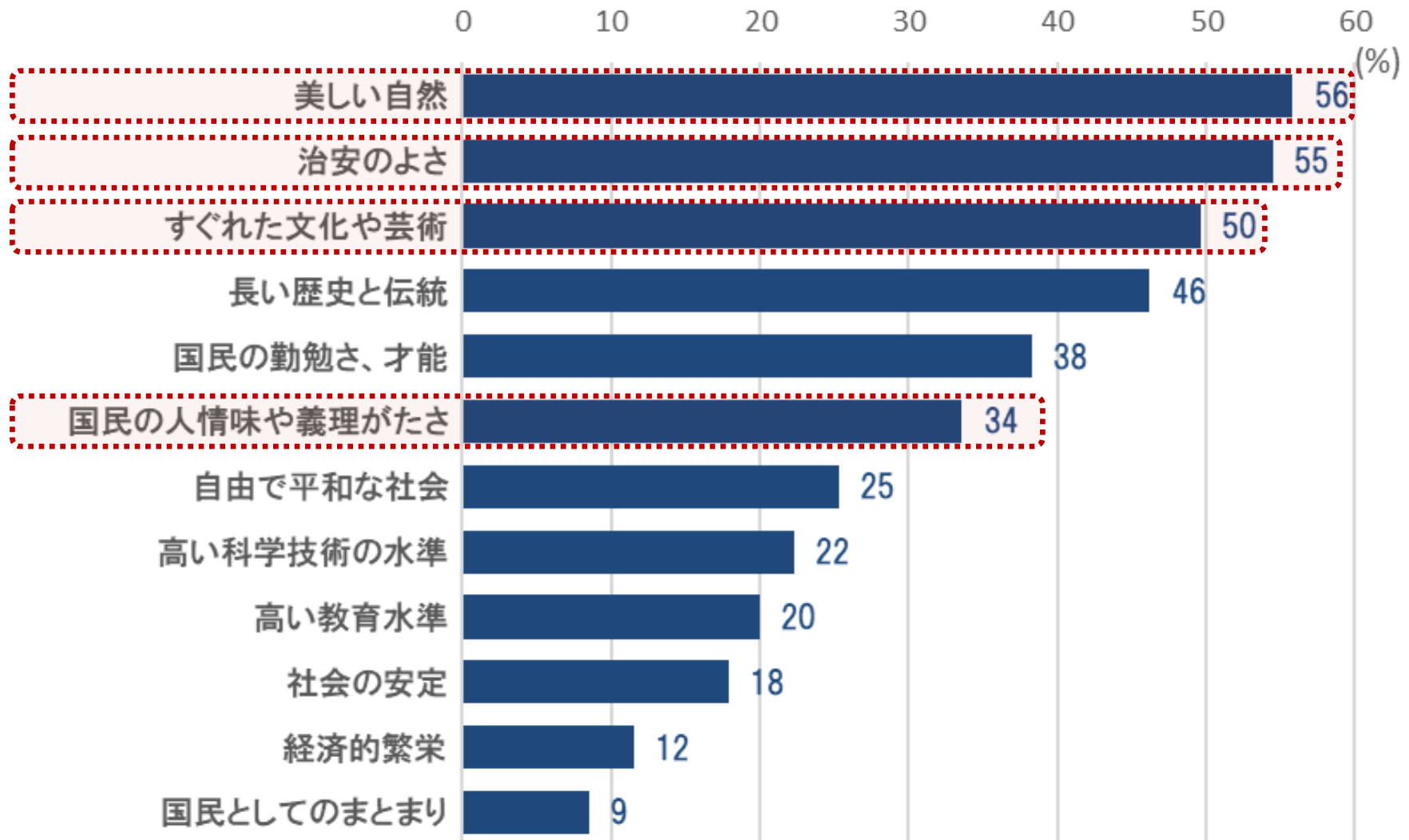
## 誇りをとりもどす

～ ないものねだり から いいとこさがし へ ～  
～ 目に見えにくい価値に気づく ～

1位:美しい自然 5位:勤勉さ、才能  
2位:治安の良さ 6位:人情味、義理がたさ



田舎の強み



# 都会のネズミと田舎のネズミ

[イソップ寓話]

- ～ 経済成長期に田舎の良さと誇りを失った ～
- ～ “都会になりたい病”に侵された田舎 ～
- ～ “何かあったらどうするの病”に侵された都会～
- ～ 電源喪失、コロナに強かった田舎 ～



- ・サービス対象.....
- ・サービス主体.....
- ・手間の考え方.....
- ・価値の考え方.....
- ・威力を発揮する力:
- ・セーフティネット.....
- ・責任の所在.....

- ## 都会
- ・顔の见えない.....  
不特定多数
  - ・公共(行政).....  
公助に頼る
  - ・徹底的に排除.....  
効率重視
  - ・お金で評価.....
  - ・ICTなど.....  
ハイテク機器
  - ・お金による.....  
ネットビジネス
  - ・何かあったら行政.....

- ## 田舎
- ・顔の見える  
コミュニティ
  - ・住民によるまちまかない  
公助→自助+共助
  - ・コミュニティ醸成ツール  
プチビジネス
  - ・目に見えにくい価値  
が大事
  - ・つながり力
  - ・コミュニティ[共助]
  - ・何かあっても自己責任



自分ごとで考えると地域は変わる  
～ 住民が優先順位を考えると地域は変わる ～

## 鶴居村(人口2481人(2022.01))

### [障害児の放課後デイサービス]

・10年以上前から保護者からの要望



・村は財政が苦しく実現していなかった



・コロナ禍で共稼ぎ等の保護者の負担増大



・保護者らでNPO法人「ソレゾレ」設立

・建設費1930万円

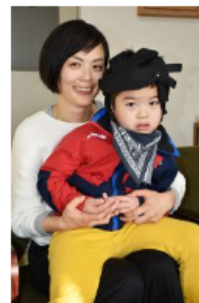
・1290万円:町+道の補助

・640万円自分たちで負担

(クラウドファンディング:200万円)

## 障害児施設、親が新設 鶴居に来月「放課後デイ」 家での負担軽減、村も助成

03/04 09:13 更新



鶴居村で放課後等デイサービスの開設作業を進めている角田めぐみさん

【鶴居】釧路管内鶴居村で、障害のある子どもの保護者らが4月、学校の授業終了後や休業日に障害児を預かる施設「放課後等デイサービス」を開設する。村内に障害児の通所施設がなく、新型コロナウイルスの感染拡大で休校が続くと、保護者が長時間自宅で面倒を見ざるを得ず、負担が増していた。保護者らが昨秋NPO法人を立ち上げ、開設資金は村と出し合う。

障害児教育に詳しく、法人理事長を務める道大釧路校の小淵隆司准教授は「放課後等

デイサービスは民間業者や社会福祉法人が開設するものが多く、保護者と自治体が協力する例は全国的にも珍しい」と話す。

村では10年以上前から、共働きの保護者らの負担を減らすために、学校以外で障害児の通える施設を求める声があったものの、財政面から実現していなかった。

昨年の新型コロナ流行では休校が続き、保護者が心身共に疲弊する問題が起きた。村内の小学校教諭角田めぐみさん(39)が障害児の親たちに様子を聞くと、「耐えられない」「このままでは心中してしまう」などの悲痛な訴えがあった。

自身も重度の知的障害のある子を育てる角田さんは「障害児も安心して過ごせる居場所をつくりたい」と、保護者らと協力して、放課後等デイサービスの開設を決意。昨年11月にNPO法人「ソレゾレ」を設立した。

村も支援を決め、建設費1930万円のうち、村の支出と道の補助金で1290万円を負担した。

大石正行村長は「公共性が高い事業と判断し、村として支援を決めた。村民の安心にもつながる」と話す。角田さんも「高齢者のボランティアを受け入れたり、近くの牧場へ遊びに行ったり、地域全体で子どもを育てるような施設にしたい」と力を込める。

ソレゾレは、建設費などの一部200万円をクラウドファンディング(CF)サイトの「キャンプファイヤー」(<https://camp-fire.jp/projects/view/381121>)で募っている。(五十地隆造、今井裕紀)

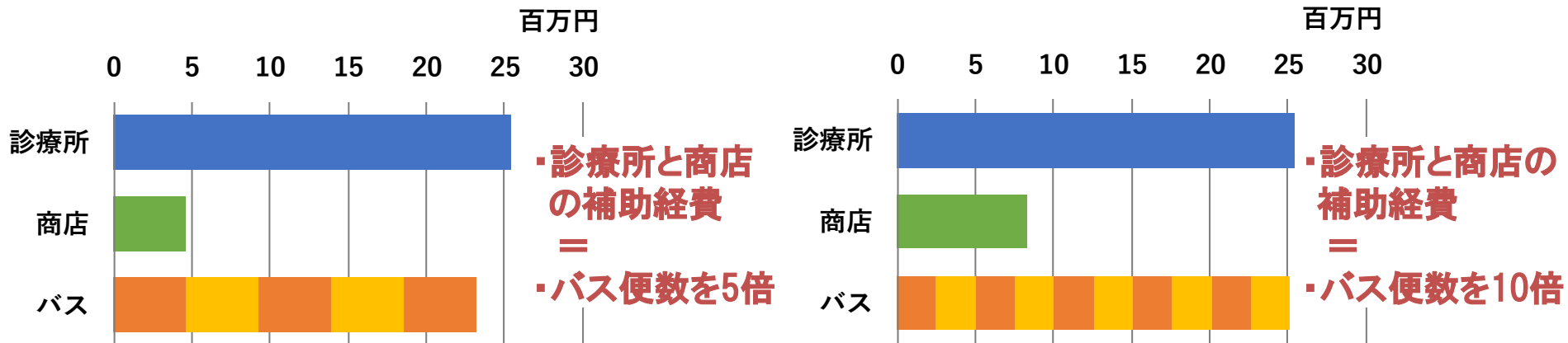
## ■“あれもこれも”の限界 いろいろな選択肢を考えよう

**[例] 診療所や商店を諦め、病院やスーパーまでの交通を充実**

### 集落の診療所・商店の維持と中心市街地までのバス増便の行政コスト比較

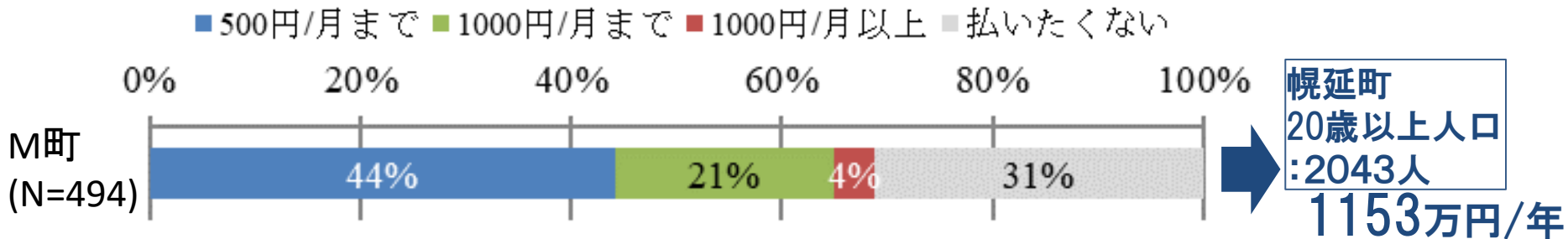
【B町A地区】

【B町B地区】



- ・診療所：B町の常設診療所のH30年度の運営経費をもとに算出
- ・商店：地域住民組織等による運営，赤字分を町が負担(道内他地区のNPOによる商店運営事例をもとに算出)
- ・代替バス：B町営の路線バスの増便(現状：朝1便，夕2便)を想定し、別調査による「路線バスの運行経費原単位252円/km」に運行距離を乗じて算出

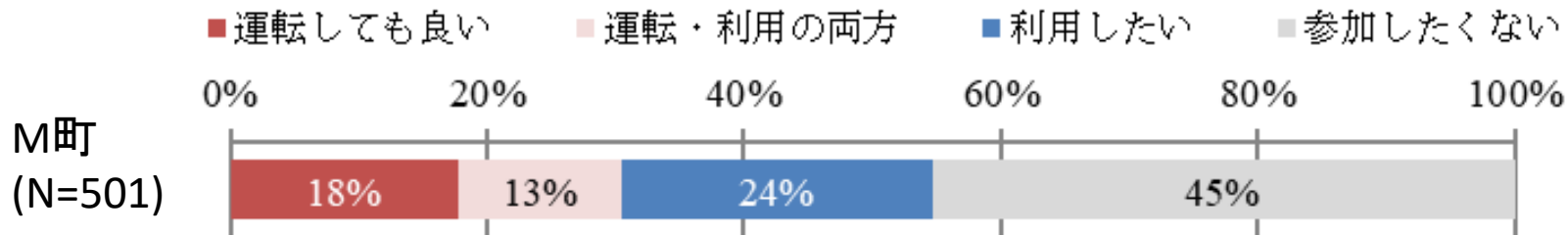
## ■生活交通のために支援金を払っても良い:約7割



支援金総額 = 支援金の支払い意向割合 × 支援金の額 × モデル地域20歳以上人口

## ■住民同士の相乗り(南富良野町)

・運転しても良い:約2割、利用したい:約2割、両方:約1割

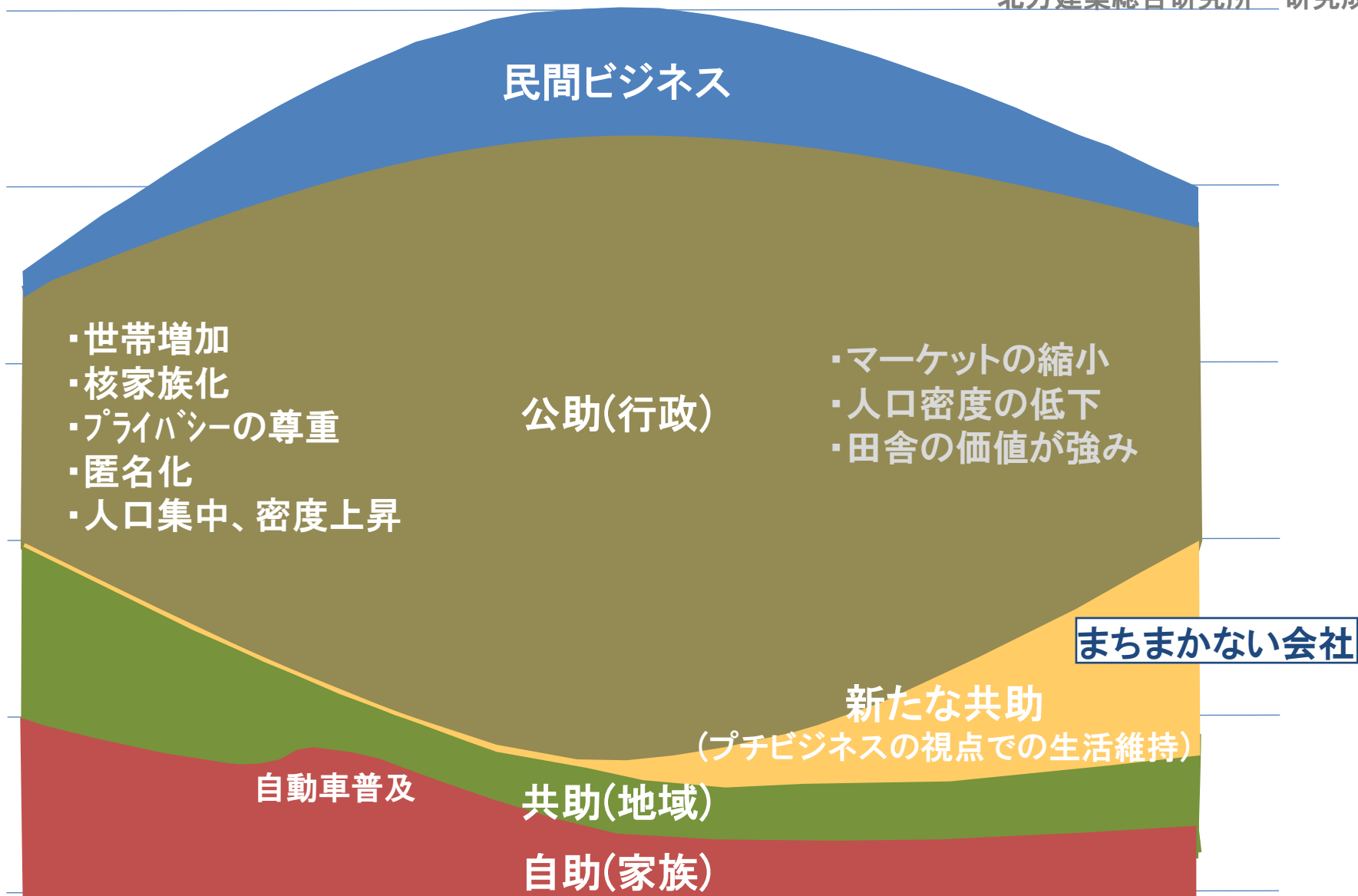


(H27~31 戦略研究「農村集落における生活環境の創出と産業振興に向けた対策手法の構築」で実施した住民アンケート調査より引用)

そうだ「まちまかない会社」をつくろう  
～ じぶんごとの地域づくりのために ～

## 地域運営組織「まちまかない会社」とは？

～ 共助の力を活かした住民による地域運営 ～  
～ 地域に誇りを 高齢者に幸せを ～





地域課題を解決するための地域運営を  
プチビジネスの複合化により行う  
住民を中心とした半公的な組織

- ..... 田舎ならではの”共助”の強みを活かす .....
- ..... 営利目的ではなく”半公的”な組織 .....
- ..... 半公的は行政や自治組織との連携で担保 .....
- ..... 高齢者が活躍する場とする .....
- ..... ちゃんと儲ける .....
- ..... 儲からないけど”必要なこと””喜ばれること”をやる .....
- ... プチビジネスを複合化する“マルチタスク”“よろず会社” ...

## ■ 行政から市町村外へ発注しているもの

- ・印刷物のデザイン
- ・各種計画策定

## ■ 都会にあるけど、田舎にはないもの

- ・宅建業(不動産業)
- ・派遣会社
- ・カフェ
- ・朝食を食べるところ
- ・ベビーシッター

## ■ 行政が手を離れた方がよいもの

- ・空き家バンク
- ・公住管理
- ・公共施設の企画・運営



人口密度低下によるインフラなどの地域運営コスト負担の増大

行政(公助)による地域経営の限界

住民主体(共助)の地域運営

- ・ ”半公的”な組織(行政、自治組織等との連携)
- ・ 高齢者の活躍する場

営利目的ではできない  
地域課題を解決

高齢者の  
健康寿命と幸福度の向上

持続可能な集落